

大道小学校ミニミニ水族館

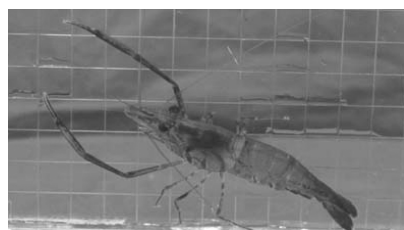
藤沢市立大道小学校

1. 実践の内容

職員玄関の一角に大型水槽2台と60cm水槽1台を設置し、①引地川・境川、②蓮池、③江の島の磯に生息する生物を捕獲してきて飼育している。休み時間になると、子どもたちが水槽をのぞき込み、魚やエビの動きをじっと見ている。子どもたちは生きものが大好きで、興味津々である。

子どもたちが川で遊べなくなって久しい。近くには大庭親水公園、親水広場、境川遊水池公園などのふれあう場があるが身近ではない。また、江の島の南には磯があり、エビ、カニ、貝などがたくさんいるが、あまり知られていない。このような状況の中で、子どもたちは川や海の生きものとふれあう機会が少なくなってしまった。

写真やビデオではなく、実際の生きものの展示は、子どもたちに様々な効果をもたらしている。



(ミナミガエビ)



(シノボリ類)



(ホヤトガリ)

2. 実践の成果

- ① 児童が生きものに興味を持つようになった。
- ② 身近なところに、いろいろな種類の生きものが生息していることを知り、驚いている。
- ③ 食物連鎖の関係や生態系など、生きものたちの関係がわかる。
- ④ 地域にすむ生きものを飼うことにより、地域の自然に興味をもつようになった。
- ⑤ 生きものの動きを見ていると心がいやされ、気持ちが落ち着いてくる。

3. 今後の課題、実践のポイント

飼育するときの最大の課題は、管理・維持することである。現在は始めたばかりであり、職員が管理・維持しているが、できるだけ子どもたちが管理することが望ましい。今後は飼育委員会や生きもの係などの活動に移行させていきたい。食物連鎖の関係で、数が少なくなった生きものを補充しなければならない。生きものを展示するだけでなく、その生きものの生態や生きている環境などを解説し、幅広い知識と豊かな感性を育てたい。